

## 令和6年度事業報告書

令和6年1月1日～令和6年12月31日

令和6年度事業活動として下記の事業を行った。

1. 日米草の根交流サミット2024 和歌山大会の開催
2. 2025年度日米草の根交流サミットサンフランシスコ・ベイエリア大会開催準備
3. 2026年以降の日米草の根交流サミット開催準備
4. 広報活動

### 1. 第31回日米草の根交流サミット2024 和歌山大会の開催

<定款上の該当条項:第1章第4条>

開催地 : 和歌山県内8市町

開催時期 : 2024年7月9日(火)～7月15日(月) (6泊7日)

参加者数 : 来日参加者 : 82名 (来賓・CIE-US関係者7名含む)

ホイトフィールド家より2名

ペリー家より7名

中濱家より1名

大会参加者総数 : 1,325名

(オープニング及びクロージングの式典、歓迎レセプションとフェアウェルパーティ、ホストファミリー、ボランティア、スタッフ、支援者、8市町地域分科会でのプログラム参加者、万次郎特別展や和歌山県立近代美術館イベント参加者等を含む)

内 容 : 2021年より開催が延期されていた和歌山でのサミット大会がようやく実現に至り、2024年7月9日(火)から15日(月)にかけて計7日間、和歌山市を含む県内8市で開催された。主催は、CIE、CIE-US、和歌山大会実行委員会とした。コロナ禍後初めて、5年ぶりに日本で中濱家とホイトフィールド家と地球儀交換が行われた。

#### ●和歌山県の受け入れ体制

日米草の根サミット受け入れにあたり、和歌山県内に実行委員会が組織され、和歌山県国際交流協会及び和歌山日米協会会長の樫畑直尚氏が実行委員会会長に就任。事務局は和歌山県庁国際課に置かれ、同課の岡澤利彦国際担当参事が実行委員長に、委員にはそれぞれの地域分科会のキーパーソンが就任した。

### ● ローカル・オブショナル・ツアー（7月10日）

以下の3つのコースを提供。サミット同窓会（日本在住者）参加者、また2016年のアトランタ大会以来参加している福島県葛尾村の葛尾中学校全校生徒らも5年ぶりに修学旅行の一環として参加し、いずれのコースも好評であった。

B及びCコースでは、サミット期間中に「万次郎資料調査団」協力により和歌山市立図書館で開催された『万次郎特別展』も見学した。

A. 【密教コース】高野山（28名参加：葛尾中学校含む）

B. 【万葉・徳川コース】紀三井寺、和歌山城など（18名参加）

C. 【民俗コース】伊太祁曾神社、和歌山風土記の丘など（24名参加：同窓会参加者含む）

### ● オープニング式典と歓迎レセプション（7月10日夕刻）

オープニング式典は、和歌山県民文化会館で開催。樫畑実行委員会会長、下宏和歌山県副知事、石川和秀 CIE 理事長が挨拶。その後、ペリー提督子孫のマシュー・ペリー氏による短いスピーチの後、中浜家とホイットフィールド家の間で恒例の地球儀の交換が行われた。また、それぞれの地域分科会のキーパーソンが、アメリカからの参加者を歓迎し、各地域の魅力や予定されているプログラムについての紹介を行った。

式典後は、会場ダイワロイネットホテルのグランドボールルームに移し、歓迎レセプションを開催。海南高等学校美里分校の生徒たちによる盛大な太鼓演奏により開会。犬塚康司和歌山市副市長（和歌山市長代理）の挨拶とディミトリ・ロレンゾン CIE-US 理事長の乾杯の音頭に続いて、急遽出席されたエイミー・ルール・エマニュエル駐日米国大使夫人が、サミット大会に深い関心を寄せたメッセージを述べた。

会場外のライトアップされた雄大な和歌山城の景色を望みながら、参加者達は和歌山を代表する数々の料理に舌鼓を打ちつつ、待ちわびた和歌山のサミット大会の開催を祝った。

### ● 地域分科会（7月11日～14日）

大会3日目の朝、県内8つの市町にて開催される地域分科会に向けて出発。3泊4日のそれぞれの分科会では、和歌山ならではの歴史、また地域に密着した文化に触れつつ、ホームステイを通じて各地域の日常生活も体験。工夫された内容の濃いプログラムを通して、新しい友情も育んだ。

< 地域分科会 受け入れ市 >

- |          |        |
|----------|--------|
| 1. 和歌山市  | 2. 橋本市 |
| 3. 田辺市   | 4. 白浜町 |
| 5. 上富田町  | 6. 串本町 |
| 7. 那智勝浦町 | 8. 新宮市 |

● 和歌山県出身日系アメリカ人の美術紹介 (7月14日)

和歌山市と橋本市の分科会参加者とホストファミリーたちは、クロージング式典会場に向かう前に、和歌山県近代美術館の「旅する美術」展を訪れ、奥村一郎学芸員による和歌山県出身日系アメリカ人画家とその作品の説明を受け、アメリカでの芸術家たちによる草の根交流に触れた。

● クロージング式典&フェアウェルパーティー (7月14日)

3泊4日の地域分科会終了後、7月14日(日)には、和歌山市内のホテルアバローム紀の国にて、アメリカからの参加者、ホストファミリー、ボランティア、その他関係者が集い、クロージング式典が催された。岸本周平和歌山県知事、尾花正啓和歌山市長、ディミトリ・ロレンゾン CIE-US 理事長らの挨拶の後、各分科会のキーパーソンと参加者代表が、3泊4日間の分科会で行われたプログラムの活動報告を行った。続いて、次回開催地ホストの北カリフォルニア日本協会会長のラリー・グリーンウッド氏が、翌年のサンフランシスコ・ベイエリア大会を紹介し、次年度大会への参加をホストファミリーやボランティアに呼び掛けた。

懇親会では、マグロ解体や獅子頭の披露とともに、和歌山ならではの食事を堪能した。最後に、紀州おどり「ぶんだら節」を会場の全員で楽しんだ後、薮添泰弘副実行委員長、檜畑直尚実行委員会会長が挨拶し、サミット成功の謝辞を述べた。

● ポスト・サミット・オプション・プログラム (7月15日～)

サミット終了後、オプションのプログラムとして、次の6つのプログラムを提供した。

1. 京都ホームステイ (2泊) と東京ホテルステイ (1泊) 9名参加
2. 金沢 (2泊) & 能登 (2泊) ホームステイと東京ホテルステイ (1泊)  
\*能登半島地震の影響により中止
3. 大和飛鳥ホームステイ (2泊) +東京ホテルステイ (1泊) 7名参加  
※協力：大和飛鳥ニューツーリズム
4. 京都フリー (ホテルステイ3泊) 7名参加
5. 東京フリー (ホテルステイ3泊) 4名参加
6. 京都 (2泊) & 東京 (1泊) フリー 1名参加

メディア掲載：

- 熊野新聞 7/12、7/13、7/14、7/18
- 紀南新聞 7/13、7/23
- 高知新聞 7/17
- 和歌山県政ニュース (YouTube) 7/31

## 2. 第32回日米草の根交流サミット2025 サンフランシスコ・ベイエリア 大会準備

令和7年度の第32回日米草の根交流サミット2025 サンフランシスコ・ベイエリア大会開催について、以下のような準備を進めた。

開催地： カリフォルニア州サンフランシスコ・ベイエリア

開催日： 2025年6月3日(火)～10日(火)

共催： 北カリフォルニア日本協会 (JSNC)、CIE-US

後援： NAJAS

地域分科会：以下の5地域での分科会を開催することとし、準備を進めた。

- ①サンフランシスコ市
- ②ペニンシュラ
- ③サウスベイ
- ④イーストベイ
- ⑤ノースベイ

式典及びレセプション：

- オープニング：市内での会場を模索中。当初アジア美術館を選定し進めていたが、変更の必要が生じ、宿泊ホテルでの会場が発案されている。
- クロージング：サンフランシスコ空港近くの野外会場を模索中。雨の心配のない気候を生かして、ベイエリアならではのおもてなしを企画している。

宿泊ホテル：ホテル・ニッコー・サンフランシスコ (6月3・4日)

エンバシー・スイーツ・バイ・ヒルトン・サンフランシスコ空港  
(6月8日)

ローカル・オプション・ツアー：

大会2日目、6月4日(水) 式典前のローカル・ツアーには以下の2コースのいずれかを訪問し、万次郎も乗船した咸臨丸サンフランシスコ来航165年を記念する特別レクチャーの聴講を含むツアーを用意した。

- A. 「日本庭園」 ゴールドゲート公園内の公共の施設。施設保存に動いた日系アメリカ人と市民たちの友情と交流の歴史に触れる。
- B. 「アルカトラズ島」 地元の人たちも勧める観光名所。自然の要塞を利用して作られた刑務所の島を見学する。

参加者募集活動：

サンフランシスコ・ベイエリア大会への参加者募集のため、下記の活動を行った(継続中)。

1. 募集パンフレットの作成
2. 和歌山大会、同窓会での告知
3. 対面及びオンライン説明会開催
4. メール・SNS 他での配信

### 3. 2026年以降日米草の根交流サミット大会開催準備

2026年度以降の日米草の根交流サミット大会開催準備を下記の通り進めた。

- 「第33回日米草の根交流サミット2026フィラデルフィア大会」  
開催地：ペンシルベニア州フィラデルフィア及び周辺地域  
開催日：2026年10月20日(火)～27日(火)  
共催：広域フィラデルフィア日米協会（JASGP）、CIE-US
- 「第34回日米草の根交流サミット2027高知大会」  
開催地：高知県  
開催日：未定  
共催：高知県、土佐清水市、CIE-US  
万次郎生誕200年記念として全国の万次郎関連団体へも協力を求めている。
- 2028年以降  
日米草の根交流サミット大会開催候補地の団体や自治体、またCIE-USや全米日米協会等から助言を得ながら、関係各所へのアプローチやコンネクションづくりを進めた。

### 4. 情報の発信

- 1) ニュースレター「草の根通信」を年度内に4回制作。  
ホームページに掲載するとともに、必要部数を印刷して配付した。  
草の根通信118号（3月）  
草の根通信119号（6月）  
草の根通信120号（9月）  
草の根通信121号（12月）
- 2) 2024年版活動報告書（Annual Activity Report）を発行。
- 3) ホームページ、FacebookなどのSNSを通じた発信：  
大会告知、ニュースレター、ウェブイベントの告知、活動情報等を掲載した。

以上

# 令和6年(2024年)度事業報告書 附属明細書

令和6年1月1日～令和6年12月31日

特になし。

- 参考資料として以下を配付
  - － 2024年版活動報告書(アニュアル・アクティビティ・レポート)